

7/8 第2回 深い学びを実現する教科等別協議会(総合的な学習の時間)授業研究会の持ち方

種別	中学校	研修タイトル	授業研究会(第1学年・第2学年)
目的	総合的な学習の時間の公開授業を生徒の姿(授業事実)と教師の指導の在り方を分析することを通して、各学校における総合的な学習の時間の単元構想、授業づくりの充実や主体的・対話的で深い学びの実現に資する。		
ポイント	①生徒の姿などの観察事実にして授業を解釈し、問題提起を行う。 ②本時の成果や課題、単元構想の在り方等について、生徒の姿をもとに協議する。 ③各学校における授業研究会の在り方の参考となるようにする。(教科等の枠を超えて、生徒の姿で語る授業研究会)		
概要	実施時期	(各学校で行う際には)2学期末～3学期()	
	対象	総合的な学習の時間に関わる全教職員	
	準備物	・付箋(75mm×75mm 青・黄・ピンク各10枚×人数) ・サインペン(人数分) ・本時の「本時案」を拡大コピー(A3)し、模造紙に貼り付けたもの(各学年分)	
	時間	50分(14:30～15:20)	
研修全体の流れ		研修の進め方(○)及び留意点(・)	
①事後研についての説明(3分) ②授業者よりI(3分) ③生徒の姿の書き出し(8分) ④本時案の該当箇所に貼り付け、成果と課題を共有 ⑤課題についての改善策を協議 ⑥気づきの交流、共有 ⑦授業者より(3分) ⑧指導・助言(3分)		①授業研究会の目的とゴールイメージを確認する。(ゴールを示す) ・イメージを示す ②授業者より、授業のねらい等を説明する・本時の位置付け、育成を目指す資質・能力の2点 ③参観した生徒の姿、発話等の気づきを書き出す(育成を目指す資質・能力にどうつながったか) ・青……生徒の姿のよかった面 ・黄……生徒の姿の「あれ?」「おや?」と感じた面 ・ピンク…本時または単元における改善策(アイデア)→ここでは出なくてもOK ④本時の該当部分に貼り付けて共有する。 ⑤KJ法、分類、関連付け等を行いながら、改善策を協議する。 ・ピンクの付箋を使ったり、模造紙上に改善策を書き込んだりする。 ・各教科等の先生方が集まっているので、教科等の関連等も視点に入れる。 ・本時の生徒の姿がどのようになっていればよかったのか、 本時に至るまでの生徒の思考や、本時以降に期待する生徒の姿に向かうための改善策を出す。 ・授業者は、グループ協議の様子を見て回り、必要に応じて参加者からの質問に答える。 ⑥1～2程度のグループから、気づきや協議したことを紹介してもらう。 ⑦本時の授業と協議の様子を踏まえ、授業者が次時以降の展望を語る。 ⑧指導主事からの指導・助言 ・本時の授業の成果と課題(エピソード1つ～2つ) ・授業研究会の持ち方の還流(記録に残す)	

30分

授業研究会の流れ

3分

① 授業研究会の目的とゴールイメージの確認

3分

② 授業者より、本時の位置付けと資質・能力について説明

8分

③ 参観した生徒の姿、発話等の気付きを書き出す

※ 資質・能力の育成につながったかどうか、という視点

④ 本時の該当部分に貼り付けて共有

30分

⑤ KJ法、分類、関連付け等を行いながら、改善策を協議する

⑥ 気付きや協議したことの共有（1～2グループ）

3分

⑦ 授業者から（次時以降の展望等）

3分

⑧ 指導・助言

生徒の姿（授業事実）と教師の指導の在り方を
分析し、改善策を協議することを通して、

**各学校における総合的な学習の
時間の単元構想、授業づくりの充
実や主体的・対話的で深い学び
の実現に資する。**

ゴールイメージ

よかった点

水

本時で育成を目指す
資質・能力につながった姿
や教師の手立て

あれ？
おや？
疑問や課題

黄

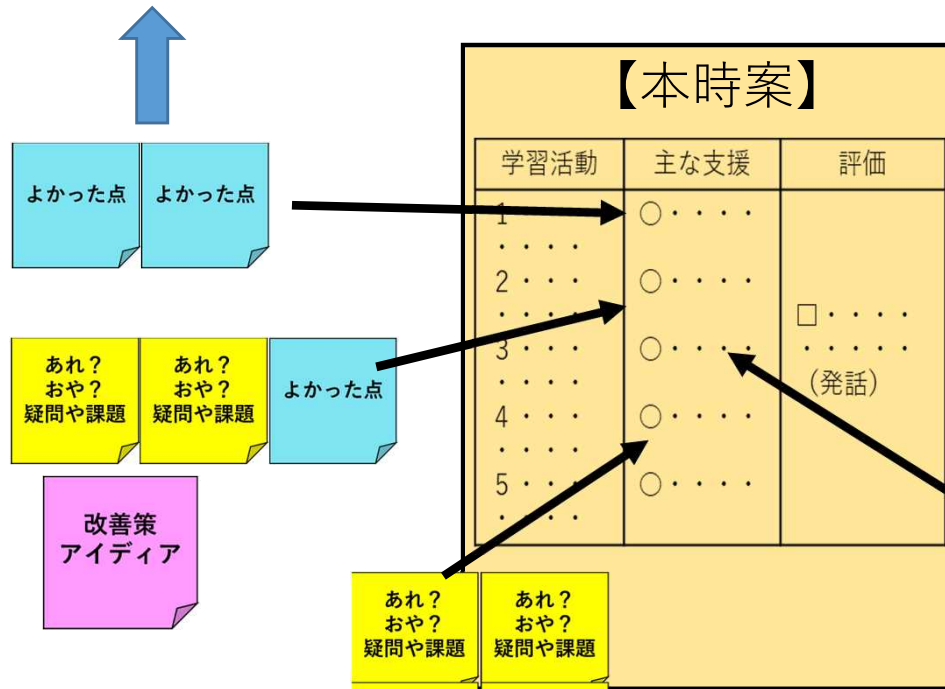
本時で育成を目指す
資質・能力につながらな
かった要因

改善策
アイデア

ピ

資質・能力の育成に向け、
どのような手立てや支援が
有効なのか

生徒の問題意識が連続
するような工夫がある。
驚きが生まれる資料提示。



たくさん出てきた
アイデアを
どうやって焦点化する？

改善策
アイデア

改善策
アイデア

視点を決めてアイデアを
焦点化する話し合い

7月8日 グループA
メンバー：○○○○、○○○○

考えるための技法と思考ツール
をマッチングさせる（要研修）



本時で考えさせたいことと、
思考ツールの機能がマッチしてい
たか？



思考ツールの活用になれてい
るのは、日常的に活用してい
るからだろう。